



伊万里市男女協働参画懇話会
多様性を生かそう

〜男女がともに活躍する社会へ〜

いまりプラザ

最近よく『女性の活躍推進』という言葉が耳にします。政府は、『社会のあらゆる分野で、2020年までに指導的地位に女性が占める割合を30%とする』との目標を掲げ、企業側に女性役員の選任を依頼しました。それを受けて、大企業を中心に、女性を役員や管理職に選任しようとする取り組みが広がり始めています。

しかし、これには単なる数値合わせになりかねないといった反発の声もあるようです。そういう反応が出るのは、

『多様性を生かす』という発想が足りないからではないでしょうか。

『多様性を生かす』とは、性別や国籍に捉われず、さまざまな人を尊重し、組織の強みとすることです。同じ年代の男性ばかり集まっても、新しいアイデアは生まれにくいと思います。『多様性』を経営戦略に掲げるある企業では、学歴や年齢が似通った男性ばかりの管理職や開発部門に女性を入れることで、乳幼児や高齢者に使い勝手の良い

商品を開発し、経営の再建に成功しています。

参考までに、女性の取締役が占める割合の国際比較（2010年）では、ノルウェーが44%、スウェーデンが21%、アメリカが15%、日本はわずか1.4%となっています。

これまでは、労働の場において、男性にスポットライトが当たりやすい仕組みだったと思います。これからは、家事分担意識の啓発や子育て支援制度の充実などにより、女性が活躍しやすい土壌を整備することで、一人でも多くの女性が能力を発揮し、男女がともに輝く社会となることを願います。

開館後19年4か月での快挙

市民図書館で

貸出1000万冊達成

11月3日、市民図書館の図書貸し出し冊数が累計で1000万冊を突破し、節目の1000万冊目を借りた山崎慶太さん（大坪町）に記念証を塚部市長が手渡しました。また、図書館フレンズいまりから、記念品が贈られました。山崎さんは、幼いころから

市民図書館を利用し、今も受験勉強のためにほぼ毎日通っているとのこと。図書は時々借りる程度で、この日はまちづくりに関する図書を借りたそうです。「すごいタイミングですね」と驚いた様子ながらも、「こは、市内外から利用者が訪れ、多くの人に愛されている図書館です。書架も工夫され、幅広い年齢の人が楽しめる場所だと思います」と、ともに育った市民図書館の快



↑達成記念のくす玉を割る山崎さん（中）と塚部市長（右）

挙に感慨深げでした。なお、この1000万冊は、平成7年7月の開館以来、19年4か月での達成となります。

郷土の文化財

史跡大川内鍋島窯跡③

● 問合先 生涯学習課
(☎) 233186

史跡大川内鍋島窯跡

史跡大川内鍋島窯跡は、佐賀藩の初代藩主・鍋島勝茂が大川内山に開いた藩窯（藩が直接経営していた窯）の跡で、江戸時代、將軍への献上や諸大名などへ贈答、あるいは佐賀城内の調度用いるための磁器『鍋島焼』を製作していました。

大川内山は、三方を極めて険しい山々に囲まれ、當時は、人が出入りできる道が限られた地形でした。そこに目を付けた佐賀藩は、17世紀後半に有田から藩窯を移し、窯で働く陶工やその家族なども移住させました。そして、藩窯と外界をつなぐ唯一の道に番所（監視所）を設けました。製品だけでなく、人の出入りも厳しく制限しながら、陶工

やその他の人々から、鍋島焼の製作技術が漏えいしないよう、徹底的に管理していたのです。

窯跡は、史料に見える遺構や地形をよく残し、登窯跡や御細工場跡、藩役宅跡などが広範囲に保存されており、貴重な文化財として平成15年に国史跡に指定されています。



↑藩窯を管理する役人が住んでいた『藩役宅跡』